

大学生における日本的スポーツ観と e スポーツの関連性

The relation between Japanese value towards sports and e-sports in university students.

1K05B029

指導教員

主査 堀野博幸先生

内田 拓

副査 石井昌幸先生

緒言

本研究では、日本人が持つスポーツ観の影響について考察していく。近代スポーツがイギリスで誕生し、19 世紀後半から世界化していく中で、日本にもスポーツは普及した。そして、現在、スポーツは大衆化すると共に多様化した。しかし、その過程でスポーツに対する様々な問題点が生まれた。それらの中の一つに日本的スポーツ観の側面がある。言い換えれば、スポーツに対する異質な価値観や偏見である。

そして、それらのスポーツ観は現在もスポーツの諸問題として根強く残っている。本稿ではそれらのスポーツに対する日本人特有の態度や価値観を「日本的スポーツ観」と呼ぶことにする。また、生活観や人生観と同じ用語法で、一般にスポーツに対する態度や価値観をスポーツ観と定義する。

日本的スポーツ観は現代のスポーツの様々な場面で垣間見る事ができる。例えば、わが国の体育の授業で当たり前のように見られる、「気をつけ」「前へならえ」といった、教師の号令によって子供を画一的に動かすいわゆる集団行動に一度は疑問を抱いた事はあるであろう。これは富国強兵時代における、軍隊の育成のために体育が使われていた歴史が今も根強く残っていることを示している。

これらのスポーツ観について、寒川(2001)は「スポーツは文化活動とは除外され、あるいは文化の中でも価値的序列の低いものとみなされているという文化的偏見」を指摘している。すなわち、スポーツが市民権を得ていないことを意味してお

り、スポーツの価値や意味が高く評価されていないのである。

そこで本研究では大学生を調査対象として、スポーツ観とその影響力について明らかにすることを目的とした。また、それらを考察するために質問紙法を用いた。そして、アンケートの研究対象を e スポーツにする事にした。

e スポーツとは electronic sports(電子スポーツ)の略称で、おもに、競技性が高いビデオゲームを使用し、反射神経や瞬間的な判断力、戦略などを駆使した競い合いを新しいスポーツとして捉えることである。e スポーツを対象にした理由は、本来、抱いているスポーツのイメージとまったく異なるためである。日本的スポーツ観と対照的な e スポーツを取り上げることで、相互の関係に相関が強く認められるという仮説からである。

まず、第 1 章では「本論の意義」と「問題の所在」を論じていく。また、著者がこのテーマを卒業論文に決めた研究動機についても触れる事にする。次に第 2 章ではスポーツの定義やEスポーツに関する先行研究の収集と整理を試みた。今まで、どのように論じられてきたのかを体系的にまとめることにした。第 3 章では大学生を対象にしたアンケートで日本的スポーツ観と e スポーツの相関関係を明らかにする。

研究方法

1) 方法

質問項目は日本的スポーツ観に関する先行研究を検討し、多々納(1984)が使用しているものを基本とし、一部修正した。さらに上記の内容

に、e スポーツに関する質問項目を加えた。これらの質問項目を用いる事で因子分析や比較考察する事が可能になり、日本的スポーツ観と e スポーツの相関関係を明らかにする事ができる。

2)) 研究対象と調査時期

早稲田大学のスポーツ科学部、人間科学部に所属するものに質問紙を配布し回収した。また調査時期は 2008 年 10 月から 2008 年 11 月の 2 ヶ月間である。

結果と考察

(1) 対象グループに対する主成分分析の結果から、主要因子に「人間関係重視」「武士道精神」「プレイエレメントの欠如」の価値観を

捉えたということになる。

(2) e スポーツの認知度は 17%で、韓国の調査と比べると低い数字であると言える。また、「e スポーツをスポーツとして認めるか」という項目には 62%の人が反対をした。

(3) 3)「e スポーツをスポーツとして認めるか」と「日本的スポーツ観」の項目で相関分析を行ったところ、二つの項目で有意差が認められた。「努力の美化」と「遊びの罪悪視」の項目に負の相関がみられた。